

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3【そなえる】	⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】 平成23年3月11日に発生した東日本大震災の様子と被害の状況について理解する。	総合的な学習の時間

【題材】

「命の大切さ」「ともに復興に向かう気持ち」

【実践の概要】

(1) 震災講話「命を守ること」

ア ねらい

被災地である宮古市への訪問事前学習として、震災津波の状況や人々の行動を知る。

イ 対象：2年生60名

ウ 期日：8月29日（木）

エ 講師：安代中学校校長（前大槌中学校校長）小野 永喜氏

＜内容＞

3月11日に大槌町で、どのような状況になったか。そのとき中学生はどうしていたか、その家族がどうなったのか。震災後、中学生は避難所からはじまりプレハブ校舎と仮設住宅での生活を余儀なくされた。家族を亡くした生徒も多い。どのような学校生活であったか想像してほしい。けれども、将来への希望は持っていた。一生懸命生きていた。誰もが、「命」を意識した。内陸では津波の恐怖はないが、命を脅かすものに対しては皆さんが考えて守るのである。



【振り返り】

○心に残っているのは高校2年生男子の手紙です。地震で自分と祖母は逃げて助かっても母親が見つからず今でも探し続けているのはすごくつらいことなのに、前向きに生きていて強くてしっかりとしているとしました。想像しただけでも母親が見つからないなんて悲しい状況を体験した人が強く生きていることを聞いて、私もその人のように強く生きたいと思います。○改めて家族の大切さが分りました。津波の映像を見て、あの波の中にあの瓦礫の下に人が死んでいる、そう思っただけで悲しくなります。でも、西根一中で行った募金が皆さんの役に立ったと聞きとてもうれしかったです。私たちと同じ中学生、被災してとてもつらかったと思います。けれども、私たちと同じように笑っています。その笑顔を大事にしたいと思いました。この経験を忘れないため、私たちも多くの人々に伝えていきたいと思いました。○津波でつらい目にあってもなお互いに助け合う人達の姿はとてもたくましく感じました。その中で中高生の働きがとても力になったと知り、私たちも何か役に立つことができるかもしれないと考えました。このような震災は起きてほしくなかったけど、復興させようと頑張る人々の姿からたくさんの事を考えました。私も一緒に復興に向かっていきたいです。○こんなに悲しいことがあったのに、中高生の皆さんがそれを乗り越えて頑張っていることは、日本中に勇気をくれることだと思いました。僕ももし地震が来てもこの中高生のように地域のためにいろんなことを頑張りたいと思いました。○避難所での生活は生徒の人達が協力して炊き出しや運営の手伝いをして避難所生活を支えていたことがよく分りました。これらのことを聞いて、もっと僕たちにできることは何かないのか、と思いました。これからも復興に向けてできることを協力していきたいです。

(2) 第3回 宮古市立田老第一中学校訪問

ア ねらい

- ① お互いに「支援する・支援される」という立場を越え、よりよい地域社会をつくる仲間として互いに学び合う関係をつくる。
- ② 命の大切さや人とのつながりを実感するとともに、一緒に将来を想像する喜びを感じる。

イ 対象：2年生 60名

ウ 期日：10月26日（土）「田老第一中学校文化祭」

エ 留意点

- ・岩手の未来を創る仲間になることを交流の目的とする。
- ・気持ちを伝える合唱をつくる。
- ・地域の人々の思いを義援金という形で届ける。
- ・一人一鉢のリンドウに一人一人が伝えたい言葉を込める。



一人一鉢のリンドウと地域の方々からの義援金を贈呈



合唱交流～思いを伝えよう～

交流の歩み

- H23. 9. 1 部活動交流
- H23. 10. 22 合唱交流、PTA交流
- H24. 10. 23 合唱交流



津波からの復興を題材にした創作劇

記念展示室

【振り返り】

○田老一中から周囲を見ると海がとても近くてびっくりしました。恐怖と戦っていたことがわかり乗り越えた人達はすごいなと思いました。劇や合唱から団結することの大切さを知りました。田老一中の津波の劇から、今自分が悩んでいることなどすごく小さいことのように思えて、何でもできるような気がしました。○田老一中に行き行って感じたことはほとんど何も建ってはいないという現実です。驚きました。生徒の皆さんの復興に対する強い思いが劇や合唱から伝わってきました。僕たちも見習って前へ進んで行きたいと思いました。○交流をとおして田老一中の生徒だけでなくその地域の人が、私たちが持っていない心の強さを持っていると感じました。復興のための活動だけではなく、合唱や劇などで地域の人達を心から支えていて、とても意味のある文化祭だなと思いました。私たちが学校でいつも通りに生活ができることに感謝し、一つ一つのことに意味があることを感じて生活していきたいです。○最後の全校合唱は、一言で言うと「みんなで心をひとつにした」という達成感がありました。○つらく悲しい震災があつて家族を亡くしても、歌声は大きく希望に満ちていました。すごさを感じました。私はなんでもすぐ諦めがちなので、田老の方々のように諦めずに最後までやってみようという気持ちになりました。○初めて田老一中に行き行って思ったことはみんな笑顔だなということです。すごい強さを感じました。台本からつくった劇からは、津波からくる恐怖や田老の皆さんが協力して復興できたことの大切さが伝わりました。この交流でいろいろな事を知ることができました。交流はずっと続けてほしいと思います。○記念展示室で見たものからは、あまりの恐ろしさに「これが本当に起こったことなのか」と信じられないほどでした。その津波の恐ろしさは、全校劇でしっかりと伝わりました。僕達は、震災の事は絶対に忘れてはいけないと思いました。